▲　夕陽を受け、朱色があざやかな南天　（６日・境内にて）

慧光

金光寺寺報
第１３８号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
TEL０９８２
８３－２３３８

今月のことば

いよいよ 大悲大願はたのもしく 往生は 決定と存じ候え
（歎異抄）

『歎異抄』は、親鸞聖人のお弟子である唯円房が書かれたものとするのが一般的な説ですので、「いよいよ大悲大願はたのもしく、往生は決定と存じ候え」（第９条『注釈版聖典』８３７頁）と説諭された相手は唯円房と思われます。『歎異抄（現代語版）』では、

大いなる慈悲の心でおこされた本願はますますたのもしく、往生は間違いないと思います。
（１６頁）

と意訳されています。

いったい、唯円房は聖人にどのようなことを言われたのでしょうか。同じ意訳を読んでみましょう。

念仏しておりましても、おどりあがるような喜びの心がそれほど湧いてきませんし、また少しでもはやく浄土に往生したいという心もおこってこないのは、どのように考えたらよいのでしょうか。　（『同』１４頁）

この問いに親鸞聖人はお答えなさいます。

おどりあがるほど大喜びするはずのことが喜べないから、ますます往生は間違いないと思うのです。喜ぶはずの心が抑えられて喜べないのは、煩悩のしわざなのです。そうしたわたしどもであることを、阿弥陀仏ははじめから知っておられて、あらゆる煩悩を身にそなえた凡夫であると仰せになっているのですから、本願はこのようなわたしどものために、大いなる慈悲の心をおこされたのだなあと気づかされ、ますますたのもしく思われるのです。　（『同』１５頁）

このように、浄土に往生することが決まっているのに喜べないのは煩悩のせいであると、聖人はおっしゃいます。

（本願寺出版社刊「大乗」誌より転載）

金光寺よろずコーナー

今月は「合掌・礼拝のしかた」についてふれたいと思います。

〈合掌・礼拝のこころ〉

・　阿弥陀如来へのごあいさつは、合掌礼拝に始まり合掌・礼拝におわります。
・　礼拝は祈ることではなく、「み仏のお徳をたたえ、敬うこと」ですから、「お礼をする」ともいいます。力まず自然な気持ちで、しかも怠りなくつづけましょう。

〈合掌・礼拝のしかた〉

・　合掌は、両手を胸の前に合わせて、指をそろえて約４５度上方にのばし、念珠をかけて親指で軽くおさえます。
　そのまま肩・ひじをはらず自然に背筋を伸ばし、ご本尊を仰ぎ「南無阿弥陀仏」とお念仏を声に出してとなえます。
・　礼拝は、合掌したままで上体を約４５度かたむけてお礼をし、上体をおこしてから合掌をときます。

ホームページ開いてます。
URL　/konkhoji.jp/
１２月６日現在　入室者数　７９１４人

仏教用語豆辞典

看病（かんびょう）

のどが渇いたとき、冷たいビールや水を一気に飲めば「甘露、甘露」と叫びたくなりますね。

一般に、おいしい飲物を「甘露」といいますが、「甘露水」以外にも「甘露煮」や「甘露梅」などのように甘い食べ物にも使われる言葉です。

甘露は、天から与えられる甘い不老不死の霊薬で、中国古来の伝説によると、天子が仁政を行えば、天から降るといわれているものです。

インドでは、「アムリタ」といい、神々が飲む不老不死の霊液で、これを飲むと苦悩が去り、長寿になり、死者をも甦らせるといいます。そこから仏の教え、仏の悟りを表わす喩えの語になりました。

『今昔物語』に「我、甘露の法門を開いて、彼の阿羅邏仙を先ず度せんと」とあるのをはじめ、甘露法雨、甘露城、甘露王などの語があります。

お釈迦さまが誕生のとき、天界の竜王が下界して甘露をそそいだという伝説から、四月八日の灌仏会には、誕生仏に甘茶をかけるようになったということです。

では、甘茶を一パイ。

（本願寺出版社発行
辻本敬順著
「仏教用語豆辞典一〇〇パートⅡ」から）

住職ひとりごと

「小川山に三回雪が積もると、祇園山に雪が積もる。祇園山に三回雪が積もると、里に雪が積もる」と小学生の頃聞き、当時はそのような経過で雪が降った記憶があります。最近は、山に三回雪が積もらなくても、雪が積もるような気がします。「地球温暖化」といわれて久しいのですが、十二月に関しては寒さが厳しくなっているような感じがするのは私だけでしょうか！

▼金光寺のホームページには書いたのですが、所ジョージさんMCの「笑ってこらえて吹奏楽の旅マーチング総集編」をご覧になりましたか？高校生の全国大会にかける熱い思い、厳しい練習を見て、崇高なその姿勢にとても感激しました。と同時に娘も吹奏楽をしていますが、果たしてどのような思いで練習をしているのかなと思ったことでした。▼いよいよ十五、十六の両日は当山の報恩講です。今年も熊本県八代市からご講師にお出でいただき、ご法義のおとりつぎをいただきます。是非、ご参詣、ご聴聞のご縁をお結び下さい。

（住職　松井卓郎）

年の終わりに

鞍岡の地にも雪が舞い落ちる時期になりました。寒いですね。四日の荒谷地区の恩講を最後に二〇一二年の恩講はすべて終わりました。まだ、秋参りが数軒残っていますが、もう、バイクでの訪問はないと思います。

バイクでお参りにうかがうと、「寒うないね」と温かいお言葉をかけていただきました。お参りしている時は気が張っているのか、寒さをあまり感じませんが、お参りが終わり、自坊に帰ると気がゆるみ、急に寒くなりました。寒が厳しくならないうちにお参りの訪問が終わり、ほっとしています。

ところで、お参りに際して、二〇一三年の法語カレンダーと報恩講の施本をお配りしました。ご利用いただきたいと存じます。施本をお仏壇前に置いてあることが多いのですが、お仏壇の前よりは手近なところに置き、何度も読んでいただきたいと思います。

カレンダーの裏面には来年の法語についての思いが書かれてあります。本頁に再掲しましたのでお読みください。（たぶん、裏面までは読まれないのではとの老婆心からの行動でした。すでにお読みの方には、どうぞお許しください）

法語について

変化の激しい現代社会です。―科学技術の急速な進歩に浴して大変便利な世の中なのですが、二〇一一年の東日本大震災や原子力発電所の事故で、大自然の脅威と人間の驕りをつくづく思い知らされ、また少子化や高齢化の問題、核家族化と家族の崩壊など、人間社会の切実な問題が山積みとなっています。

人生において、安寧と「幸せ」を求めながらも、この迷いの世にあって、人間同士あるいは自己の存在についてはげしい葛藤の中にあるといわざるを得ません。何をたよりに生きるべきか。『歎異抄』に「煩悩具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのことみなもって、そらごとたわごと、まことあることなき……」（迷える私たち、燃えさかる家のようにたちまちに移り変わるこの世界は、すべてはむなしくいつわりで、真実といえるものは何一つない……）といわれているとおりです。

仏教に出遇ったものとして、あるがままの真実にめざめられた釈尊にならい、また自ら「愚悪なるもの」ときびしく見つめられた親鸞聖人のみ跡を慕い、あらゆるものに大慈悲のみ手をさしのべてくださっている阿弥陀如来のはたらきをたのしみとして生きるところに、本当の「安寧」が与えられることでしょう。

その、如来の偉大なる功徳（おはたらき）として智慧・慈悲・方便が示されますが、今年のカレンダーは、その「智慧と慈悲」をテーマとしています。如来のおさとりの智慧の輝き、お慈悲のはたらきが、本願力となり、名号となってこの私の上にはたらいてくださっています。また、そのおはたらきに出遇われた先人たちのお言葉に、如来の智慧と慈悲のはたらきが輝いているといただくことができるでしょう。そのお言葉に、この私の歩む道をたずねさせていただきたく思います。

法語の世界

《原　文》

同行・善知識にはよくよくちかづくべし。「親近せざるは雑修の失なり」と『礼讃』（意）にあらはせり。あしきものにちかづけば、それには馴れじと思へども、悪事によりよりにあり。ただ仏法者には馴れちかづくべきよし仰せられ候ふ。俗典にいはく、「人の善悪は近づき習ふによる」と、また「その人をしらんとおもはば、その友をみよ」といへり。「善人の敵とはなるとも、悪人を友とすることなかれ」といふことあり。

（蓮如上人御一代記聞書　百四十九）

《現代語訳》

「念仏の仲間やよき師には、十分に親しみ近づかなければならない。〈念仏者に親しみ近づかないのは、自力の人の過失の一つである〉と、『往生礼讃』に示されている。悪い人に親しみ近づいていると、自分はそのようにはならないと思っていても、おりにふれて悪いことをするようになる。だから、ただひたすら、深く仏法に帰依した人に親しみ近づかなければならない」と蓮如上人は仰せになりました。一般の書物にも、「人の善悪は、その人が近づき習うものによって決まる」、「その人を知ろうと思うなら、その友を見よ」という言葉があります。また、「たとえ善人の敵となることがあっても、悪人を友とするな」という言葉もあります。

二〇一二（平成二十四年）金光寺報恩講のお知らせ

日　時

十二月十五日　午前十時～　日中法要（上下参り）
（九区・十三区・十四区地区）
午後七時～　逮夜法要（おばん）

十二月十六日　午前十時～　日中法要（中央参り）
（十区・十一区・十二区地区）

講　師

熊本教区種山組円成寺住職
浄土真宗本願寺派布教使
谷　實　照　師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典（お経本）をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要（午前十時からの法要）にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後七時からの逮夜法要にお参り下さい。

報恩講は、親鸞聖人のご命日を縁として、一年に一度、浄土真宗の門信徒が阿弥陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、浄土真宗では一番重要な法座です。

是非、ご勝縁をお結び下さい。